



戦後再建した建物で三代目が運営している

アートな麻布に魅せられて②9

家族の歴史、絆、笑顔レンズを通して見守る

松尾写真館

麻布十番商店街で存在感のある、昭和レトロな佇まい、それが大正12年(1923)創業の「松尾写真館」です。お店の前には、いい表情をした笑顔の写真が所狭しと飾られていて、道行く人が立ち止まって眺めていきます。穏やかな家族の表情に、なんだかほっこりします。



戦前は十番商店街の本通り沿いにあったという



祖父の代から使っていた大型カメラ「アンソニー」



創業以来同じデザインで使われている台紙

大家族の中で育つ

松尾写真館は三代目松尾輝明さん(49歳)が、代表を務めています。輝明さんの祖父善男さんが、ここ麻布十番で創業した時は、現在の十番商店街の大通りの方にありました。当時から外国人が多く、ハイカラな写真館は多忙でした。ところが戦災に遭い、店も機材も全て灰に。戦後すぐ、商店街の仲間と長屋風の共同ビルを建設、それが今の場所です。祖父善男さんは、輝明さんの父、次男の賢一さんをはじめ7人の子どもを抱え、大変な時期もありました。兄弟が力を合わせ、善男さんの写真館を手伝いました。昭和30年代は十番周辺に5〜6軒の写真館があったそうです。家庭的で温かみのある接客が支持され、松尾写真館だけ現在も残っています。

「僕が小さい頃は、祖父母や叔父一家が店の上で暮らしていて、一日中賑やかでした」。一人っ子の輝明さんは、大家族の中で育ったも同然で、ビル4階の食堂で、おばあちゃんや叔母さんの料理をみんなで食べていました。輝明さん父子は、近所に住んでいましたが、寝に帰るだけ。下校後は写真館で過ごす日々でした。商店街の子どもたちの王道コース!「南山小→城南中(現六本木中)」に進み、都立三田高校へ進学した輝明さん。一步外へ出れば、必ず知り合いに会うのが日常でした。「今もそうです(笑)」

父と子の二人三脚で写真館を支える

輝明さんは大学進学の際、写真館の跡取り、が頭をよぎるのですが、悩みながらも写真とは縁もゆかりもない学部を選び、食品会社に就職。その後、飲食

店を経営したり、写真とは無縁でした。中古カメラを扱う店主と出会い、カメラ談義に花を咲かせた時、「歴史を目で見えるかたちで残す」ことに目覚めたといいます。それは祖父、父が大事にしてきた「家族の豊かな時間を残す」ことに他なりません。写真館として存在意義を改めて感じた、輝明さんにとっての転機でした。二代目は長男、四男、そして次男の父の3人で共同経営をしていました。その後2人の叔父はセミリタイア。そんな折、三代目として父と写真館経営に携わるようになりました。

新しいものを取り入れながら伝統を尊重する

スタジオには、祖父や父たちが築き上げた物が溢れています。撮影のバックに使用する緞帳はよく見ると、濃淡があります。二代目の3兄弟が生地の上から塗料で一つ一つ塗って作ったもの。「アンソニー」は、祖父の代から使用していた大型カメラ。フィルムを入れれば、撮影可能です。そして棚には古いカメラの数々。大切な写真を取める台紙のデザインは創業当時から変わっていません。

輝明さん中心の運営を任されるようになり、伝統を受け継ぎながら、新しい試みも積極的に取り入れています。

まず外部から、スタッフを採用。「親子ほどの年齢差がある」高嶋柚羽さんです。「若い感覚はとても大切。私が気づかないことをさらりと教えてくれる」と、輝明さん。

撮影の 카테고리 は家族写真が圧倒的に多いのですが、「お受験写真」「ペットといっしょ」「マタニティフォト」を新たに提案、好評です。3世帯同居が減り、1世帯ファミリー中心になった今も、写真で残したい家族の歴史、絆の想いは変わりません。



スタッフの高嶋さんに大いに支えられている



写真館の中にも所狭しと写真の数々が並ぶ。3代にわたり撮影している家族も多い

親子3代にわたり、家族写真の撮影に通うお客様が目立ちます。外国人の多い街だからこそ口コミで広まり、こちらの写真館を訪れる外国人家族からの依頼も創業時代から。今の家族の姿を残したいという想いは、世界共通です。

輝明さんのお嬢さん2人は小学生。カメラに興味があるようで、「ちょっと嬉しいです」と、すっかりパパの顔に。そんな未来に夢を託しながら、「かけがえのない今を、かけがえのない未来の宝物へ」。松尾写真館の想いは永遠です。

松尾写真館
港区麻布十番2-1-11 03-3451-9436
HP <https://azabu-matsuo.com>



令和4年(2022)9月に他界された父、賢一さんと。貴重なツーショットになった



左が創業者の祖父善男さん家族。抱っこされているのが輝明さんの父、賢一さん



祖父、父が愛用したカメラの数々



THE

六本木・麻布エリアに集う若者たちの今の声

VOICE

六本木・麻布エリアに集う若者たちのリアルヴォイスを紹介するTHE VOICE。このまちに「住まう」「働く」「遊ぶ」「学ぶ」彼らのトレンドを追う新企画。初回は、六本木ヒルズのけやき坂下に位置する人気のコーヒーショップで、大学1年生の時から「働く」2人の学生の声をお届けする。



先崎智哉さん(せんざきともや)
大学院で都市開発を研究している。今まで訪れた全国のサウナは、スマートフォンの地図上に数多くプロットしている。

六本木、このまちにしかない魅力が満載

智哉さん アルバイトをしている六本木ヒルズは、六本木ヒルズ森タワーや六本木ヒルズレジデンスなど、さまざまな要素を持つ複合施設です。ヒルズ内では多くのイベント、夏まつり、アートナイトが行われ、いつ訪れても新しい発見があり、そこが魅力的だと思います。観光客や居住する外国人とのコミュニケーションも出来、日々刺激になっています。

史晃さん 六本木ヒルズ森タワー最上階の森美術館や最新設備の映画館、歴史ある毛利庭園、ヒルズの施設内に設置されたパブリックアートの数々。ファッションブルでクロスカルチャーなこの場所は、他のまちにはない魅力がたくさんあります。

このまちで「サ活」にも勤しむ日々

史晃さん 「サ活」というのは、サウナを楽しむ活動のことです。サウナと聞くと、暑くて汗もたくさん出て苦しいイメージがありますが、サウナの後に水風呂に入って外気浴で身体を休める。こうすることで、ある感覚「ととのう」が生まれるんです。身近な場所で非日常を味わう体験を智哉さんと一緒に楽しんでいます。

智哉さん 昨年から史晃さんと2人で活動を始めて、日々のストレスを吹き飛ばす(!)ための手段としてサウナへ通っています。サウナはルールがあって、始めるのに敷居が高いと思いがちですが、サウナを題材とした著作(単行本)や映像化されたテレビドラマもありますので活用するといいと思います。



西川史晃さん(にしかわふみあき)
快適でファッション性を備えたサ活を目指す、経済学を専攻している大学生。

西麻布にてはじめての体験

—プライベートサウナへ密着—



西麻布1丁目完全個室サウナのジブンスアウナ前で。朝からサウナは珍しいのと「はじめての個室サウナ」体験を前に、少し緊張しています。(史晃さん)



普通のタオルよりも薄くて速乾性と吸水性に優れ、サウナに適したタオルを各々色違いで使っています。(史晃さん)



ととのいの時間に自分好みの香りに包んでくれる3つのアロマオイルが用意されています。今回、ハーブの香りのすっきりブレンドを選びました。(史晃さん)



ストーブの上の焼き石に、アロマオイルを数滴垂らしたアロマ水をかけると蒸気が発生します。このことをロウリュといい、この蒸発した熱気が体感温度を上昇させ体への効果を高めてくれます。(智哉さん)



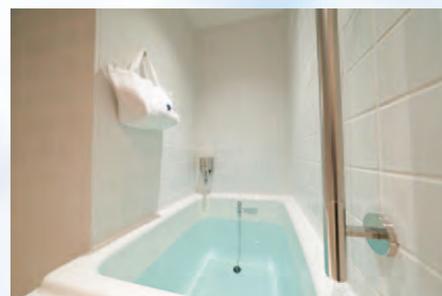
麻布十番にはまちの人たちに親しまれている銭湯をはじめ、西麻布のプライベートサウナ、会員制のラグジュアリーな個室サウナ、そして六本木通りには新たなサウナ施設が建築中。ますます、このまちから目が離せません。(智哉さん)



サウナ室同様に檜を使ったラウンジでサウナ体験後の水分補給中です。60分1人用プライベートサウナを体験して、自分の好みに合わせてカスタマイズした空間で、最高に「ととのい」ました。(智哉さん)



休憩スペースで体を休める/ととのう。このサイクルを2、3回、目安に繰り返して行います。先ほど選んだ香りに加え、部屋の音と光をカスタマイズすることで空間を演出します。ナイト(夜)の落ち着いた光の空間にゆったりと流れる音楽で寛ぎました。(史晃さん)



シャワーで髪や体を洗い/きよめる→サウナ室に10分程度入り/たかめる→汗をシャワーで流してから水風呂へ/ぬる/しずめる。そして、ととのいの時間へ移ります。(智哉さん)

地域社会
の
ゆくえ

28

雑式通りに サムライ現る!?

小雨舞う朝の雑式通り。
肩で風を切りながら闊歩する西岡房夫さん(93歳)に遭遇した。
前を見据える真剣な眼差し。
右手には何やら長いものを携えている…これは一体何だろう?
ザ・AZABU編集委員として真相を確かめねば。
西岡さんにお話し、お供させていただくことにした。



道すがら、西岡さんに若々しさのヒミツを伺った。

一ご長寿の秘訣をズバリ教えてください。

西岡さん:よくしゃべること!

一食生活で気をつけていることは?

西岡さん:若い頃は好き嫌いが多かったけど、食事を作ってくれている娘のおかげで克服できたね。こんにゃくが苦手だったけど、残したら次の日も出てきてびっくりしちゃったもんねえ。

一日々のルーティンは?

西岡さん:毎朝のラジオ体操に加えて、月曜はカラオケ、火曜は体操、水曜はカラオケ、木曜は吹矢…と、いきいきプラザの教室へ通ってるよ。

スーパーナニワヤ前の横断歩道を渡り、東町小学校方面へ向かって、辿り着いた先は南麻布いきいきプラザ。そう、西岡さんは毎週木曜日に開かれているスポーツウエルネス吹矢教室の生徒さんだったの



だ。携えていた長いものは吹矢で用いる筒だそう。

教室は、港区スポーツウエルネス吹矢協会会長の荒井和子さん・刻城さんご夫妻が中心となり、指導を行っている。区内在住・在勤の60歳以上の方ならどなたでも参加が可能だ。スポーツウエルネス吹矢は、6~10m先の的をめがけ、120cmの筒を使って矢を放つ。胸式呼吸と腹式呼吸の両方を用いる為、誤嚥性肺炎の予防、血圧安定、美肌効果があるといわれている(ただし、個人差がある)。1ラウンド3分、5本の矢を吹く間は緊張感に包まれ、ピーンと張り詰めた空気に。が、終わると一転、互いに「すぞいねえ」と声をかけ合い、笑みがこぼれる。的は、中心から7点、5点、3点、1点となっており、1ラウンド終わるごとに合計点数を申告。荒井さんご夫妻の情熱と、皆様の真摯に取り組む姿勢が美しく、ずっと取材をしていたい気持ちになった。



高齢者のフレイル※予防になると信じて、港区で吹矢を始めてから24年が経ちました。コロナ禍の状況下でも教室を続けていられるのは、港区が環境を整えてくださったおかげです。南麻布いきいきプラザでは、入口での検温・消毒はもとより、光触媒コーティングによる消毒と、CO2濃度測定器が設置されています。私達も、用具をその都度アルコール消毒し、床に落ちた跳ね矢はマグネットを付けた棒で取り上げるなど、出来る限りの対策を講じています。教室については、一人暮らしの高齢者が増えるなか、心配してくれる仲間ができる事が大切だと考えています。皆さんの笑顔が私の喜びです。

※加齢に伴う様々な機能変化や予備能力低下によって健康障害に対する脆弱性が増加した状態
(荒井秀典, 2014.『フレイルの意義』『日本老年医学会雑誌』第51巻6号, p. 498. 一般社団法人 日本老年医学会より引用)

港区スポーツウエルネス吹矢協会会長
港区介護予防リーダー
荒井和子さん



つながる ひろがる 仲間の和

今年(令和4年)3月には、港区との共催による「第4回港区いきいきプラザスポーツウエルネス吹矢教室交流会」が開催された。会場となった港区スポーツセンター・サブアリーナでは、厳格な感染予防対策のもと、区内の10教室に通う総勢49名が日頃の練習の成果を発揮した。

※〈 〉内は所属するいきいきプラザ名

荒井先生がとっても良い人。教室には一つ年下の仲間もいて、付き合いが楽しいですねえ。
代田和一さん(南麻布)

吹矢を始めてから、腹式呼吸のおかげで合唱の時に声がよく伸びるようになりました♪
田丸はる美さん(白金)



“静のスポーツ”といわれる吹矢
カメラのシャッター音すら憚られるような静寂のなか、的を射る音が会場に響き渡った

いやあ、コロナ禍のなか安心・安全をモットーに練習してきた甲斐がありました。
個人8mの部 優勝 伊関捷一さん(ありす)



教室対抗の 優勝 ありすいきいきプラザ

ありすの教室は和気あいあいとした雰囲気、長く通われている方が多いです。

個人8mの部 準優勝
澤村泰子さん(ありす)



大会最高齢 94歳の代田さん
試合後のセレモニーでは、麻布地区総合支所 櫻庭靖之副総合支所長より記念品が授与された

皆が背筋を伸ばしてスタートラインに立つ姿を見て元気をもらえ、自らも与えたいと思います。

審判長 渡邊英明さん(南麻布)



リーゼントがトレードマークの渡邊審判長
いつも皆の人気者☆

8年前から、母と2人で通っています。皆さんに優しくしていただいて。おかげさまで、母がすごく楽しく取り組んでいて、私もうれいいます。
富田有紀子さん(青南)



91歳の母・華子さん(写真中央)を後方から見守る娘・有紀子さん(写真左から2番目)

「カッコイイとは、こういうことさ。」

アニメ映画『紅の豚』(宮崎駿監督)のポスターに書かれたメッセージである。取材写真を選んでいる時、この一文が脳裏によみがえった。私も60歳になったら、吹矢教室へ行ってみようかな。港区、そして麻布の地で歳を重ねることが楽しみになってきた。

●南麻布いきいきプラザ

毎週木曜日 午前の部9:30~11:45 午後の部13:30~16:30
〒106-0047 港区南麻布1丁目5番26号
電話/03-5232-9671 FAX/03-5232-0568
HP: <https://www.central.co.jp/plaza/minamiazabu/index.html>

●ありすいきいきプラザ

毎週水曜日 13:30~15:30
〒106-0047 港区南麻布4丁目6番7号
電話/03-3444-3656 FAX/03-3444-3298
HP: <https://www.central.co.jp/plaza/alice/index.html>

●参照 『スポーツウエルネス吹矢を長く楽しむために~活動の手引~』一般社団法人 日本スポーツウエルネス吹矢協会,2021.04

(取材・文/武藤佳菜)



コスタリカ共和国
 面積:51,100平方キロメートル(九州と四国を合わせた面積)
 人口:約509万人(2020年 世界銀行)
 首都:サンホセ(標高1,200メートル)
 言語:スペイン語
 元首:ロドリゴ・チャベス・ロブレス大統領
 (2022年5月から2026年5月、任期4年、8年以上の間隔を置けば再選可能)
 議会:一院制(57名)(任期4年、連続再選禁止)

コスタリカ共和国

参考:外務省ホームページ
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/costarica/index.html>
 取材/コスタリカ共和国大使館

コーヒー豆を運ぶための伝統的な運搬車



(左)伝統食「タマル(Tamal)」 (右)鍋でタマルを煮ているところ

大使を訪ねて
麻布の"世界"から



COSTA RICA

自然が豊かで平和の文化が根付いているコスタリカ共和国。「ニュー・エコノミクス財団」が4年ごとに調査を行っている「地球幸福度指数」※1で3回連続(2009、2012、2016年)の1位となっており、「世界で一番幸せな国」としても注目されています(日本は2016年58位)。2019年に大使就任されたアレクサンダー・サラス大使(Mr. Alexander SALAS)は日本への造詣が深く、2回目の就任です。

取材ではエベリン・ケサダ大使夫人(Mrs. Evelyn Quesada)も同席してくださり、コスタリカの自然・料理についてお話を伺えました。

日本語は実践で学んだ

大使は1987年に国際協力機構(JICA)の研修生として来日されました。

当時はヨーロッパ・アメリカへの関心が強く、日本について知っていることは「サムライ」「芸者」「忍者」「鉄腕アトム」くらいでした。

日本へ行くことになり渡されたのがウォークマンと日本語のテキスト。その頃知っていた日本語は「さよなら」だけでした。日本行きの飛行機の中でウォークマンとテキストで日本語の勉強をしました。

日本で暮らし始め、新宿に驚きました。ビルは高い、人はたくさんいる、服はみんな黒。自動ドア、キャッシュカード、テレホンカードにも驚きました。

カラオケ・盆踊りなど日々の生活のなかでベーシックな日本語を修得されました。

JICAの研修で中小企業の見学のため、広島・愛知・京都・奈良をめぐる世界が

広がり、さらに日本の文化を勉強していくうちに、日本の大使になりたいという夢を持ちました。

そして夢はかないます。平成17(2005)～平成18(2006)年、駐日大使となられました。令和元(2019)年から再び駐日大使を務められております。令和元(2019)年10月22日皇居正殿松の間で今上天皇の即位礼正殿※2の儀が執り行われ、クラウディア・ドブレス・カマルゴ大統領夫人と共に参列されました。サラス大使は平成と令和の二度にわたって信任状を捧呈※3した初の駐日大使です。



自然と共生、動物園はない

コスタリカの気候は5～11月は雨季、12～4月は乾季と分けられます。両岸を海に挟まれ地形が変化に富んでいることから、地域によっては降雨量がまったく違います。地球の約6%の生物が生息していると言われ、国土の25%が国立公園として保護されています。

火山が約100あり、今も噴火しています。アレナル火山国立公園のあるアレナル火山は、コスタリカで最も活動の激しい火山です。周辺のタバコン川に温泉があり、温泉に入りながら火山を見ることができます。火山は「花火」のように綺麗だということです。

ウミガメの一斉大産卵を見ることのできる、カリブ海(大西洋)側では、北東部のトルトゥゲロ国立公園と南東部のガンドカ・マンサニージョ野生動物保護区で主にオサガメ、タイマイ、オリーブグリーンのカメが生息しています。太平洋側では、主にラス・パウラス国立海洋公園、オスティオナル野生動物保護区でオサガメが生息して

います。わずかに数キロの海岸全体が産卵にやってくるウミガメで埋め尽くされる光景は圧巻です。世界で生じる未だに解明されていない不思議な自然現象の一つです。ウミガメにGPSを付けて調査したところ、ウミガメはオーストラリアに行ってコスタリカに戻ってくるのが分かっています。

自然と共生しているので動物園はありません。ピクニックなどを楽しんでいる時、突然ピューマが出てきたり、蛇が出てきたりします。遭遇した時は驚きますが自然なことと受け止めています。自然と人間とが調和した暮

らしから、次の時代をよりサステナブルなものにしようとする国民の意識が「幸福度の高い国」をつくり上げてきたといえそうです。

クリスマスに頂く伝統食「タマル(Tamal)」

コスタリカの主食はインディカ米のごはんと豆。米と豆を入れて炊くごはんを朝食にすることが多く、日本の赤飯のようなごはんです。スペイン料理とインディオ料理が融合したレシピがたくさんあります。

クリスマスには、家族全員で集まって「タマル」を作ります。「タマル」は各家庭によってレシピが違います。基本的な調理方法はとうもろこしの粉と具材を合わせバナナの葉で包み煮ます。調理には7時間ぐらいかかるとのことです。

材料

- ・とうもろこしの粉
- ・鶏肉
- ・人参
- ・ピーマン
- ・ゆで卵
- ・バナナの葉(包む)
- ・リサノ(調味料)

大使夫人のレシピで作られた「タマル」を頂きました。大使夫人の「タマル」は、しっかりと食感で、フォークで簡単に切れ、具材もひとつずつ味がしっかりしてとても美味しかったです。「タマル」によく合うコーヒーと一緒に頂きます。

リサノは調味料、しょうゆにチキンのエキスを入れたような味で日本では売っていません。リサノを「タマル」にかけると味が変わり、辛くはないけどピリッとささらに美味しくなります。日本人好みの味に感じました。

FIFAワールドカップカタール2022

大使はFIFAワールドカップカタール2022に南米代表として3大会連続6度目の進出を果たしたことを大変喜んでおられました。サッカーはコスタリカでもっとも盛んなスポーツです。FIFAワールドカップではコスタリカと日本は同じグループEで他にスペイン、ドイツの4か国で戦います。大使は日本と戦うことには複雑な心境だそうです。コスタリカ×日本戦は11月27日アフメド・ビン＝アリー・スタジアム(Ahmad Bin Ali Stadium)でキックオフ!!

※1 地球幸福度指数:国民の満足度や環境への負荷などから「国の幸福度」を計る指標である。
 ※2 天皇の即位を日本国内外に知らせる儀式
 ※3 特命全権大使として認めて頂きたい旨を派遣元の元首が記した親書を天皇陛下に手渡す儀式



タバコン川の温泉地 写真提供:コスタリカ大使館



アレナル火山 写真提供:コスタリカ大使館

(取材/高柳由紀子、堀切道子 文/堀切道子)

麻布 未来写真館

狸穴坂

（麻布に棲む狸の謎を紐解く）



昭和45(1970)年 狸穴坂中腹より坂上に向かって ※写真真正面の建物は麻布郵便局 港区立郷土歴史館所蔵



令和4(2022)年9月 坂中腹より坂上に向かって 正面は森ビルが手掛ける「虎ノ門・麻布台プロジェクト」の高さ330m、「あべのハルカス」を超える日本一高いビルです

麻布にある動物の名前を冠した坂では42号の牛坂、52号の鼠坂に続き3番目の紹介です。周囲にはロシア大使館、東京アメリカンクラブ(59号で紹介)、日本経緯度原点(4号で紹介)などがあり、麻布を代表するロケーションであるといっても過言ではありません。そんな麻布の「狸穴」にはどんなエピソードが埋まっているのでしょうか？



昭和34(1959)年 港区立郷土歴史館所蔵

坂名の由来と現在の姿

この坂のある麻布狸穴町は、港区で麻布永坂町と共に2カ所だけとなる「住居表示未実施区域」です(30号「飯倉・永坂」で紹介)。

坂名の由来は諸説ありますが、港区設置の標柱には「まみとは雌ダヌキ・ムササビまたはアナグマの類で、むかしその穴が坂下にあったという。採鉱の穴であったという説もある。」読んで字の如し、と言わんばかりですが「昔、狸の巣穴が坂下にあった」ことが由来のようです。現在は閑静な住宅街といった佇まいで、坂は比較的勾配のある長い坂です。



平成21(2009)年 「麻布未来写真館 平成21年度活動報告」より



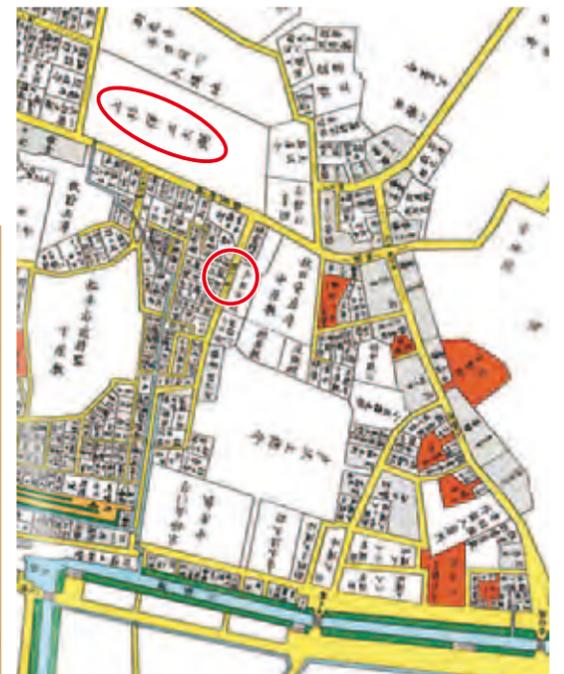
令和4(2022)年 坂上より

上杉弾正大弼

少し話は飛びます。坂を上り切った現在の外苑東通りを挟んだ向かい(麻布台1丁目)は再開発の真っ只中ですが、少し前まで麻布郵便局(16号で紹介)があり、現在も外務省飯倉公館(12号で紹介)があります。古地図(「御府内場末往還其外沿革圖書(文久2(1862)年)」)によれば「上杉弾正大弼」と示されています。これは米沢藩上杉家中屋敷があった場所です。米沢藩上杉家はご存知の方も多いと思いますが、戦国大名上杉謙信の養子・景勝を初代藩主として立藩しました。「弾正大弼」は官職名ですが、米沢藩上杉家の代名詞のようになっていたようです。実はとても長い歴史のある家柄です。それ故に数多くの紆余曲折がありました。

越後と山内、長尾と上杉

上杉謙信は戦国大名として名を馳せた武将ですが、坂東八平氏のひとつ(越後)長尾家の出自で、代々越後守護上杉家を補佐する家格でした。永禄4(1561)年、山内上杉家の家督と関東管領職を相続しました。この山内上杉家そのものの歴史は更に古く、室町時代より関東管領を世襲する家柄でした。鎌倉の山内に居館を置いたことに因んだ関東屈指の名家です。越後守護上杉家と山内上杉家は同族ですが(一口に「上杉家」と言っても中身はとても複雑で幾重にも分派しています)、山内上杉家が本家筋にあたるため、謙信(当時の名前は長尾景虎であり、分家筋の家臣。相続により上杉政虎に改名)がこれを相続したことは戦国下剋上の偉いといえ、異例中の異例の出来事だったのではないのでしょうか。



赤丸囲みが米沢藩中屋敷(上杉弾正大弼)と狸穴 文久2(1862)年「増補港区近代沿革図集 麻布・六本木」に加工

麻布上杉家

謙信死後、家督を継いだ上杉景勝は戦国末期に豊臣政権下の五大老として、戦火止んで間もない関東及び東北の抑え(一説に徳川家康と伊達政宗を抑える役割)を担い会津120万石を拝領しますが関ヶ原の戦いで西軍に与したため、戦後米沢30万石に減封されます。これにより米沢藩を立藩することとなりました。その後3代目綱勝が急死し、無嗣子断絶となるところを岳父・保科正之(47号に登場)の仲介奔走などもあり、高家・吉良義央の長男・綱憲が4代目として存続を許されました。この時15万石に減封されます。

米沢新田藩は米沢藩の支藩で綱憲の四男・勝周が1万石分藩として立藩しました。上屋敷は麻布にありました。米沢藩宗家の中屋敷の一部を与えられたもので、それが麻布上杉家の由来になっています。

麻布と上杉家、意外な縁で結ばれていました。名門上杉を冠する「麻布」があったのです。少し大げさな言い方ですが、「麻布のお殿様」です。ちょっと驚きです。

でも本当の話です。狸に化かされている訳ではありません。

上杉家も米沢藩も長い歴史の中で幾多の困難を克服し、明治維新まで家名を存続した、実はエピソード満点の魅力溢れる藩です。

これはきっと狸穴坂にも面白い歴史が埋もれているに違いありません。

そんな狸穴坂を歩きませんか。面白い「狸」に会えるかも知れませんよ。



米沢市上杉博物館所蔵 上杉景勝像

「麻布未来写真館」とは

麻布地区総合支所では、地域への共感や愛着を深めていただくため、麻布地区の歴史やまちの移り変わりを記録、保存、継承する活動を行っています。

麻布地区の定点写真の撮影、昔の写真の収集等については、港区在住、在勤、在学者で構成された区民参画組織「麻布を語る会 麻布未来写真館分科会」が主体となって活動しています。まちの歴史や文化を多くの方々にご紹介いただけるよう収集した写真をパネルとして港区ホームページや展示会で紹介していますのでぜひご覧ください。

「麻布未来写真館」では、古い写真を探しています!

明治から昭和にかけての麻布地区の建物や風景、お祭りなどの写真を募集しています。詳しくは、港区麻布地区総合支所 協働推進課 地区政策担当までご連絡ください。

お問合せ 電話:03-5114-8812



麻布の外周を歩く③

麻布地区の外周を、境界線に注目しながら一周するこの企画。第3回目は、一之橋から西久保八幡神社迄歩きます。赤羽橋迄は古川が境界線ですが、さてその先の境界線はどこにあるのか、なぜそこが境界線になったのか、探ってみましょう。【約1.6km】



古川沿いを一之橋から赤羽橋へ

かつて古川は細い流れでしたが、徳川四代将軍、家綱の時代の延宝3(1675)年に東京湾河口から一之橋のあたりまで川幅を広げて通船を可能としました。この時の工区が、河口の「一番組」から終点一之橋の「十番組」に分かれていたことが「麻布十番」の地名の由来ともいわれています。明治初期には現在の東麻布2丁目エリア(旧森元町および北新門前町)は芝区でしたが、明治13(1880)年に古川が麻布区と芝区の境界線と定められ、今に至ります。

前回(天現寺橋から一之橋迄)と同様、川と高速道路が並行して走り、高架下に建物・公園・橋などが点在します。消防署(本誌No.56で紹介した麻布消防署飯倉出張所)と港区の水防倉庫(水災時に必要となる資機材を保管)も高架下にあります①。

消防署に近接する中之橋には火の見櫓を模した親柱が②。近隣の久留米藩主有馬家屋敷にあった火の見櫓③を模したと伝えられますが、高速道路竣工前の写真には消防署の火の見櫓も写っています④。古くからの消防に縁のある場所だったのでしょう。消防署は大正12(1923)年に赤羽橋交差点の北西角地に開設され、2年後に現在地とほぼ同じ場所に移転。以降、戦災、土地区画整理等を経て、高速道路竣工後の昭和43(1968)年に高架下の建物となりました。



消防署左隣に港区の水防倉庫



②



浮世絵「江戸名所 赤羽水天宮」に描かれた赤羽橋と火の見櫓(港区立郷土歴史館所蔵)



芝公園方面から赤羽橋交差点を望む(昭和42年)

赤羽橋から桜田通りを北上

赤羽橋から、境界線は古川とほぼ垂直に北上します。東麻布1丁目交差点の手前を右折すると現れる、桜田通りと平行する道路が境界線です。ほどなく右手に坂道が⑤。坂に沿う東麻布児童遊園、心光院、瑠璃光寺は麻布地区、坂上の東京タワーは芝地区です。東京タワーの足元から心光院境内を見下ろすと、6~7mはあろうかと思われる高い崖で敷地が隔てられており、これぞ「境界」と感じる眺めです。なお、心光院表門は国登録有形文化財。増上寺の子院として境内にあった寛保3(1743)年に建てられ、二度の移転※に伴い移築されました。

※宝暦11(1761)年、赤羽橋(現在の飯倉公園あたり)に移転、昭和25(1950)年、戦災復興土地区画整理により現在地に移転

崖がつくる境界

瑠璃光寺から北は境界線に沿う道が無く、「右手のビルの奥が境界線かな」と想像しながら桜田通りを北上します。江戸期の地図を見ると、現在の桜田通り西側に町人地と瑠璃光寺があり、さらに西に増上寺があります。現在の境界線は当時の敷地境界とほぼ一致し、旧増上寺境内が芝、町人地と瑠璃光寺が麻布地区です。ではなぜここが境界になったのか。色別標高図と照らし合わせると、地形が関係しているようです。現在、境界線が見える場所は限られますが、飯倉交差点近くの聖アンデレ教会⑥や、西久保八幡神社⑦(いずれも麻布地区との境界に接して芝地区に立地)には、心光院と東京タワーの間にあったような崖の姿を見ることができます。「道路」や「水路」と同様に、「高低差」も隣接する2つの地区を隔てる明快な境界線として認識されたのではないのでしょうか。



心光院と東京タワーは崖を隔てて隣接



赤羽橋(右下)から左上に伸びる道が現在の桜田通り
灰色部分が町人地
文久2(1862)年「増補港区近代沿革図集 麻布・六本木」より引用



色別標高図に境界線を加筆。桜田通り西側の境界線は地形に沿う(地理院地図に加筆)



⑥



⑦



●参考文献
鈴木理生『江戸東京の川と水辺の辞典』2003, 柏書房
東京消防庁史編さん委員会編『東京消防庁史稿 自治体制度編』1968, 東京消防庁総務部総務課
麻布消防署開署50周年記念特別事業実行推進委員会『麻布消防署50年のあゆみ』1975
伊坂道子編『増上寺旧境内地区歴史的建造物等調査報告書』2003, 境内研究事務局

港区の職員を名乗り「保険料や医療費の還付金がある」という詐欺電話が多発しています！

区の職員が還付金や返還金に関しATMに行くようお願いすることは絶対にありません。

振り込め詐欺被害防止に効果がある自動通話録音機を無料で貸与します

電話の呼び出し音が鳴る前に、自動的に相手に警告し、通話を実際に録音する自動通話録音機を使用すれば、詐欺電話はほぼ撃退できます。区内の高齢者がいる世帯等に無料で貸与しますので、ぜひ利用しましょう。

※電話回線による非常通報装置(区の緊急通報システムを除く)とは併用ができない等、電話機の状態によって利用できない場合があります。

※電話料金等は利用者負担です。

問い合わせ／防災課生活安全推進担当 ☎3578-2271



都税事務所からのお知らせ

11月は個人事業税第2期分の納期です

令和4年11月30日(水)までに、お納めください。納付される際は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、非対面式のキャッシュレス納税(スマートフォン決済アプリによる納付、クレジットカード納付等)のご活用をお願いいたします。また、省エネ設備の取得に係る減免の申請も受け付けております。

お問合せ／港都税事務所
電話／03-5549-3800(代表)

中小企業者向け省エネ促進税制 ～法人事業税・個人事業税の減免～

東京都では、中小企業者が行う省エネ設備等の取得を支援するため、法人事業税、個人事業税を減免しています。

詳細は、東京都主税局HP「<東京版>環境減税について」をご覧ください。



主税局HP

お問合せ／中小企業者向け省エネ促進税制について
港都税事務所 電話／03(5549)3800(代表)
主税局課税部(法人) 電話／03(5388)2963
主税局課税部(個人) 電話／03(5388)2969

地球温暖化対策報告書制度・導入推奨機器について
クール・ネット東京 電話／03(5990)5091

不動産取得税における認定長期優良住宅の特例について

令和6年3月31日までに一定の要件を満たす認定長期優良住宅を新築した場合、または新築未使用の認定長期優良住宅を購入した場合の不動産取得税については、住宅の価格(評価額)から1,300万円(価格が1,300万円未満である場合はその額)が控除されます。

認定長期優良住宅の特例適用を受けるには申告が必要です。詳細は、HPまたは下記問合せ先へ。

お問合せ／港区にある物件について
港都税事務所 電話／03(5549)3800(代表)

eLTAX電子納税が大変便利です

地方税共通納税システムでのeLTAX電子納税が大変便利です。インターネットバンキング等での納税に加えて、事前に登録した口座から引き落としができるダイレクト納付ができます。

さらに、全国の自治体に一括で納税することが可能です。また、令和3年10月から都民税利子割・都民税配当割・都民税株式等譲渡所得割の納入が可能となりました。

詳細はeLTAXホームページをご確認ください。



エルタックスHP

<https://www.eltax.lta.go.jp>

小規模非住宅用地の固定資産税・都市計画税を減免します(23区内)

一画地における非住宅用地の面積が400㎡以下であるもののうち200㎡までの部分について、固定資産税・都市計画税の税額の2割を減免します(個人又は資本金・出資金の額が1億円以下の法人等が所有するものに限る)。減免を受けるためには、令和4年12月28日までに申請が必要です。

※こちらの申請は、インターネットでもお手続きができます。

※未申請の方で、小規模非住宅用地を所有していると思われる方には、8月までに減免手續のご案内を送付しております。

認定長期優良住宅(一定の要件を満たすもの)を新築した場合、 固定資産税が減額されます～1月31日までに申告してください～

期間 新たに固定資産税が課税される年度から5年度分(3階建以上の耐火・準耐火建築物については7年度分)

軽減税額 固定資産税額(居住部分で1戸あたり床面積120㎡相当分までを限度)の2分の1を減額

住宅が新築された年の翌年(1月1日新築の場合はその年)の1月31日までに、減額の申告が必要です。

詳細は、HPまたは下記問合せ先へ。

お問合せ／港区にある物件について
港都税事務所 電話／03(5549)3800(代表)



東京ゼロエミ住宅の新築に対する不動産取得税を減免します(23区内)

減免の対象と額は以下のとおり

減免の対象 太陽光発電システムの設置など、一定の要件を満たす新築の東京ゼロエミ住宅

減免割合 最大で住宅に係る不動産取得税の10割

減免を受けるには申請が必要です。また、この他にも、耐震化促進税制等、住宅を新築したときに軽減を受けられる場合があります。

詳細は、東京都主税局HPをご覧ください。下記へお問い合わせください。

お問合せ／港区にある物件について
港都税事務所 電話／03(5549)3800(代表)



東京ゼロエミ住宅

来所せずにお手続きができます

主税局では、納税者の皆様が都税事務所等に来所することなく、郵送やインターネット等でお手続きできる仕組みを設けております。郵送や電子による申告、申請・届出、キャッシュレスによる納税方法等をぜひご利用ください。詳細は、主税局HPをご覧ください。

<https://www.tax.metro.tokyo.lg.jp/index.html>



主税局HP

港区麻布地区総合支所だより



令和4年度 港区総合防災訓練(麻布会場)を実施します ～在宅避難について考えよう～

過去の災害の教訓を踏まえ、今後発生が懸念される首都直下地震などの災害に備えるために、港区総合防災訓練(麻布会場)を、3年ぶりに参集型で実施します。コロナ禍で高まる「在宅避難」について、お役立ち情報をお届けします。



日時 令和4年11月13日(日) 9:30~11:30 予定
場所 港区立六本木中学校(港区六本木6-8-16)

主な 訓練内容

※今後の調整により、内容が変更となる場合があります。

- 起震車体験、VR防災車体験
- はたらく防災・防犯車両展示
- 煙体験訓練、初期消火訓練、D級ポンプ取扱操作訓練、ブロック破壊訓練
- 在宅避難のすすめ
- ライフラインの災害時対応展示、備蓄品を活用した防災レシピの紹介 ほか



同時開催! 防災を楽しく学ぼう「ぼうさいクエスト」

会場内の訓練を体験し、クイズに挑戦!

クエストを達成して記念品ゲット!

ゲーム感覚で楽しみながら、いざという時の在宅避難について、学びましょう。



買い物
するなら
地元の
商店街で

ザ・AZABUへのご意見・ご要望をお寄せください

住所・氏名・職業(学校名)・電話番号・ご意見・ご要望(日本語又は英語、字数・様式自由)を書いて、直接又は郵送・ファックスで、〒106-8515 港区六本木5-16-45 麻布地区総合支所 協働推進課 地区政策担当へ。

●電話/03-5114-8812 ●FAX/03-3583-3782

地域情報紙「ザ・AZABU」はホームページからもご覧いただけます。

「ザ・AZABU」は英語版も4カ月後に発行しています。



ザ・AZABU

●配布設置場所のご案内
六本木一丁目、六本木、広尾、麻布十番、赤羽橋の各地下鉄の駅、ちいばす車内、みなと図書館、麻布図書館、南麻布・ありす・麻布・西麻布・飯倉の各いざいきプラザ、麻布区民センター、麻布地区総合支所等

●本紙掲載の記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

Staff
おおばりか 加生美佐保 Mai S. 高柳由紀子 田中亜紀 田中康寛 富田弥生
奈良美扶 畑中みな子 樋口政則 堀内明子 堀切道子 武藤佳菜 八巻綾子

編集後記

コスタリカ共和国駐日大使ご夫妻のおもてなしに感謝し、写真館二代目松尾賢一氏のご祝福をお祈りいたします。この春、退職を機に委員に加えていただきました。紙面作りを通して、このまちの古さと新しさ、変わりゆくものと変わらないものに出会えることに大きな魅力を感じています。サークル活動もサウナ活動もサステナブルな自分磨き。錆び始めたアンテナを磨いて、好奇心のいっぱい詰まった紙面をお届けしたいと思います。(樋口政則)

「みなとコール」は暮らしの疑問にまとめてお答えします!

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽に問合せください。年中無休/午前8時~午後8時 ※英語での対応もいたします。

電話/03-5472-3710 FAX/03-5777-8752
お問合せフォーム/ <https://www.city.minato.tokyo.jp/kouchou/kuse/kocho/iken/form.html>

“Minato Call” information service
Minato call is a city information service, available in English every day from 7 a.m.~11 p.m.

Minato Call: Tel: 03-5472-3710; Fax: 03-5777-8752;
Inquiry submission form: <https://www.city.minato.tokyo.jp/kouchou/kuse/kocho/iken/form-inquiry.html>